

# 救急車を呼ぶタイミングと連絡・報告

普段から、とっさの対応が取れるよう心掛けよう！

以下の症状で、一つでも当てはまれば、自分たちで救急車を呼ぶ

救急車  
(119)  
を呼ぶ



状態は  
変化する

## 1. 意識をみる

- 意識がない（声かけに反応なし）
- もうろうとしている
- 受け答えがおかしい
- ろれつがまわらない
- 自分で動けない



※迷ったら救急車を呼ぼう！

## 2. 全身をみる

- けいれん・ひきつけ・全身硬直
- ゼーゼー呼吸が苦しそう
- 呼吸が弱い
- くちびるの色が紫色
- 顔色が明らかに悪い、冷や汗
- 多量出血・出血が止まらない
- 広範囲のやけど
- ふらついてまっすぐ歩けない
- 失禁している

## 3. 訴えと状況の把握

- 頭部を強打した
- 体に強い衝撃を受けた
- 高いところから落ちた（概ね傷病者の背の高さ）
- 頭部の陥没、ぶよぶよしたタンコブ・出血
- 手足などの変形と激しい痛み
  
- （突然の）高熱
- （突然の）強い腹痛
- （突然の）激しい頭痛
- 止まらない嘔吐

ケガをした、いつもと違う、調子が悪い時は、早めに休養・受診

- けが ⇒ 洗浄・止血
  - 打撲・捻挫 ⇒ 固定、冷却などの応急処置（RICE処置）を行う
  - 熱中症 ⇒ 塩分水分補給、冷却、休養などの応急処置を行い安静にする
- 友だちをみて、いつもと様子が違う時は、声をかけて健康観察を行う

- 体調が回復しない場合 ⇒ 保健管理センターに通報する
- 深いケガ、痛みが続く ⇒ 医療機関受診

## 119番で、聞かれること

- 搬送される人数
- 搬送される人の氏名、性別、年齢
- 傷病が発生した場所（岡山大学津島キャンパスのどこか）
- 傷病が発生した状況（例：〇〇部の練習中、急に意識がおかしくなって倒れた）
- 現在の状態（例：会話が出来ない、自力で歩けない、などを簡略に）
- 連絡した人の氏名と連絡先



- 救急車の誘導ルートを考え、人の配置をしよう
- 救急車に同伴する人1名を確保し、帰りの交通手段も考えて準備をしよう
- 責任者は病院に行く準備をしよう

## 救急車を呼んだ後、大学関係部署、顧問、そして保護者への連絡を忘れずに！

- 保健管理センター 電話：086-251-7217（平日 8:30～17:00）
- 学生支援課 電話：086-251-7183（平日 8:30～17:00）
- ※上記が繋がらない場合、大学守衛室へ 電話：086-251-7096（休日も含め24時間対応可）
- 顧問教員 電話：\_\_\_\_\_
- 搬送された者の保護者 電話：部員緊急連絡先一覧から
- 部員の緊急連絡先一覧は必ずつくっておこう